

# ボランティア OSAKA



第6号

'96 / SUMMER

●発行●  
(福)大阪府社会福祉協議会  
大阪府ボランティアセンター

特集

Sailin' On  
第5回全国ボランティアフェスティバル大阪

～新発見 ボランティアロード なにわから～

全国Vフェスに参加する大阪市の大型帆船「あこがれ」

# 第5回

# 全国ボランティアフェスティバル、 いよいよ開催! ワクワク ドキドキ 新しい自分に出会える一日間

新発見  
ボランティアロード  
なにわから

「第5回全国ボランティアフェスティバル大阪」の開催がいよいよカウントダウン。全国ボランティアフェスティバルは、さまざまなプログラムを通じてボランティア活動への理解と参加をアピールし、今後の活動が全国で一層盛んになることをめざして開催されるボランティアの祭典です。

フェスティバルは開会式典に続き、シンポジウム、44の分科会・講座、屋内・屋外のボランティアフラザでの楽しい催しに加えて、映画「ガイアシンフォニー」の上映や森進一さんの「ボランティアのこころを歌うコンサート」、上田正樹さんによるフィランソロピーコンサートなど、多彩なプログラムが予定されています。

大阪大会のテーマは「新発見 ボランティアロード なにわから」。文化が行き來したシルクロードになぞらえて、新しいボランティアの姿を9月の2日間、この大阪から全国に発信します。「ワクワク」「ドキドキ」がいっぱいのビッグな祭典。さあ、あなたもボランティアフェスティバルに参加して、「新しい自分」を発見してください。

とき 9月21日(土) 22日(日)  
ところ 大阪城ホール 大阪城公園・太陽の広場 OBDほか

NHK  
ボランティアフォーラム  
21日13時~15時30分 IMPホール

第1部では「アメリカ・ボランティア探訪」と題して、愛知淑徳大学国際部長・榎田勝利さんがアメリカのボランティア事情について講演。アメリカでは国民の50%以上が何らかのV活動をしていると言われていますが、暴力犯罪や銃、麻薬などの社会問題に取り組む市民の自発的活動を紹介しながら、民間ボランティアが活動しやすいアメリカの社会システムを検証していきます。

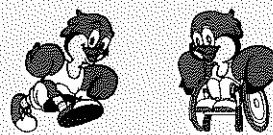
続く第2部では、阪神・淡路大震災でのゲリラ的ボランティア活動で注目を集めた作家・田中康夫さんが「神戸震災日記」と題して講演。ボランティアのあり方、これからの展望を含めて、参加者の皆さんと考えていきます。

(協賛事業)



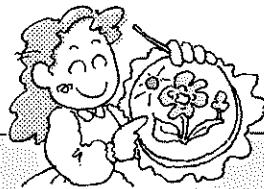
## ボランティアプラザ（屋外）21日

- 日赤コーナー
- 共同募金コーナー
- なみはや国体コーナー・ふれ愛びっく大阪コーナー
- 大阪オリンピックコーナー
- 子供家庭センターコーナー
- 手話・点字体験コーナー
- さわる絵本コーナー



## バザーゾーン

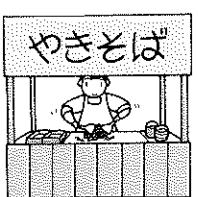
社会就労センターなど障害者小規模作業所の手づくり  
製品を展示販売。



## 会場略図

総合案内

総合案内



大阪城ホール

大阪城

→JR大阪城  
公園駅

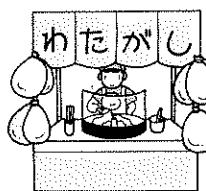
野球場

震災ボランティア  
活動パネル

休憩ゾーン

おもちゃ図書館

遊具フワフワ



## 遊び体験ゾーン

木工や創作、ゲーム、伝承遊び等、さまざまな人とふれあいながら遊びましょう！



## ステージゾーン

演芸、奇術、手話劇、パン  
ド…。Vグループ、企業、  
労組、福祉施設等がステー  
ジで楽しい催しを開催。



## 食いだおれゾーン

Vグループ、企業、労組、市区町村社協、団体、  
施設等が腕を競って飲食の模擬店を開きます。



(協賛事業)

21日13時30分～16時　いずみホール

**チャリティ  
クリスマスコンサート  
～音楽の捧げもの～**

青少年の健全育成を目的に開催され、  
今回で8回目を迎えるチャリティコンサ  
ート。21日は福祉に理解ある著名な演奏  
家ならびにコーラス団の協力を得て、い  
ずみホールで全  
ボラ協賛事業と  
して盛大に開催  
されます。



(協賛事業)

21日15時～17時　大阪城ホール

「じゃがいもの会」の中心となって、  
難民救援などのボランティア活動でも知  
られる歌手・森進一さん。大阪は森さん  
が、初めて集団就職した思い出深い街だ  
そうです。その大阪で、楽しいトークを  
含めて、ライヴ  
ワークとなつた  
ボランティアの  
こころを力いつ  
ぱい歌い上げ  
ます。

**森進一  
ボランティアの  
こころを歌うコンサート**

シンポジウム

## テーマ 「新発見 ボランティアロード なにわから」

9月22日 9時～12時 IMPホール

ボランティア活動に参加することで、自分自身の何かが変わります。またボランティアには、これから社会になくてはならないものという、新しい意識が国民の間に広まっています。

このシンポジウムでは、全国各地の生活と地域に根ざしたボランティア活動の中から、「新しい視点や魅力を持った活動」や「さまざまな人々が参加しやすい広がりのある活動」に焦点をあて、その活動を映像で紹介。そしてシンボリストとコーディネーターの皆さんに「ボランティア活動の持つ魅力」「ボランティア活動から得たもの」「理想のコミュニティ」などを話題に、「新しいボランティア観」を語り合っていただきます。

### ●シンポジスト

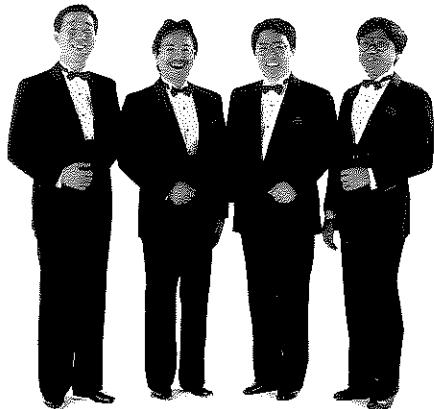
牟田 恵三さん（東京都／じどりむじのうちのネットワーク）  
木村多加緒さん（大阪市／福祉機器・住宅研究会）  
吉原 京子さん（東京都／東京ガス株式会社品川支社）  
小佐野一郎さん（神奈川県／綾瀬市社会福祉協議会）

### ●コーディネーター

廣瀬久美子さん（NHK放送センター・チーフアナウンサー）



式典会場の大阪城ホールステージに出演するロックバンド  
“シャンデ”



プラザ（屋内）ステージ、21日（土）に登場する  
ワイルドローバースの皆さん

21日 10時～17時	22日 10時～14時	ツインビルギャラリー
-------------	-------------	------------

### フィラソロピー博覧会

まだまだ知られていない、企業のフィラソロピーの歴史と活動について、誰にでも理解できるように写真やバリアフリー商品などの展示で紹介。

### フィラソロピーステージ

企業の社会貢献をテーマに、非営利団体と企業のパートナーシップの事例をステージで紹介。どなたでもおいでください。ステージに集合してね！

●21日 14時30分～16時

「ガイドヘルプボランティア公開セミナー」（担当 松下電器  
シヤンテの熊野さんがコーディネーターを担当。日の不自由な方との接し方を体験していただきます。どなたでもお気軽にご参加ください。

●22日 10時～12時

「地域へはばたけ——北河内地域での学校5日制の取り組み紹介——」

（担当 三洋電機）  
ミー・コンサート 中島光一さん、守口養護学校音楽クラブなどが出演。

紙芝居 寝屋川養護学校PTA5日制対策委員会が土日休業日の取り組みを紹介します。

### 交流野球

21日 10時～18時 大阪城・野球場

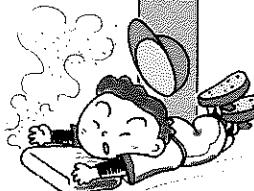
障害のある方々などの交流野球を行います。

### フィラソロコンサート

21日・22日 13時～20時（西日本）大阪城野外音楽堂

自然にやさしいリサイクル運動を推進する

ために、上田正樹さん、木村充揮さんなど、関西を中心に活動するプロ・アマ25組が出演。2日間、楽しいマラソンコンサートがくり広げられます。（協賛事業）



## ボランティアプラザ（屋外）22日

## 大阪ラブウォーク10周年記念事業

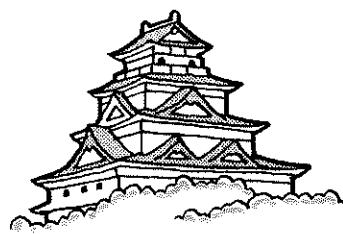
22日 9:00～12:00 大阪城公園・太陽の広場  
ラブウォークとは、ユニセフ(国際連合児童基金)が提唱する、楽しく歩くことを通し、市民が参加する国際的チャリティ運動。大阪では「おおさか　ふれ愛　夢つくり」府民運動の一環として開催していますが、当日は9時に太陽の広場に集合し、オリエンテーションの後2つのコースに分れ、約2時間かけて大阪の史跡巡りを行います。(協賛事業)

## バザーゾーン

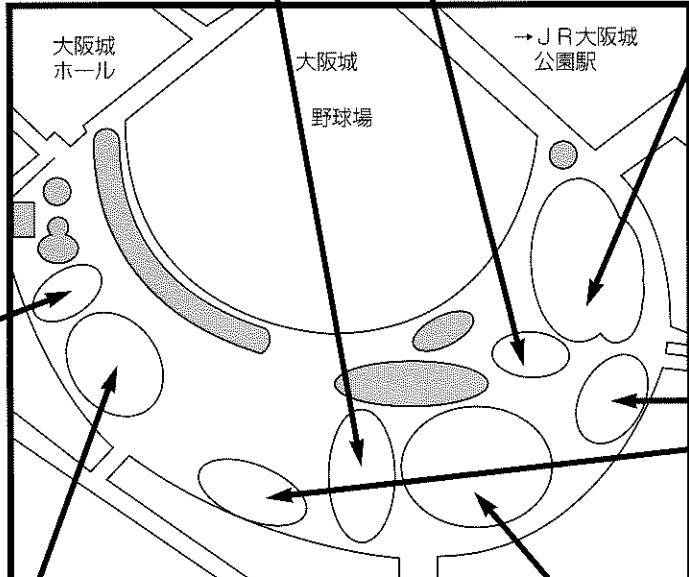
社会就労センターや障害者小規模作業所の手づくり製品を展示販売。

## フリーマーケット

市民、市民団体、ボランティア団体、施設、労組などが不用品を持ち寄り開催。掘り出しモノを見つけてください。



会場略図



## 遊びゾーン

手づくりコーナー、ゲームコーナー等、子どもたちの楽しい遊び場。

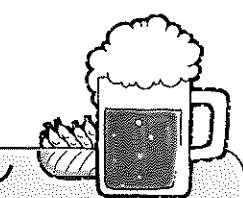
## 体験ゾーン

車椅子を押したことがありますか？  
ここでは楽しく福祉体験。



## ステージゾーン

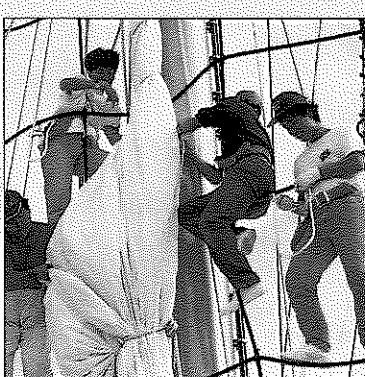
団体や当事者団体等が、ステージで楽しい音楽や奇術を披露。



## 食いだおれゾーン

世界の料理やビールを味わい、さまざまな食文化が楽しめる模擬店と、さまざまな団体や企業も工夫を凝らした模擬店を出店。

## 表紙の写真



日本で初めて、自治体（大阪市）が建造した帆船「あこがれ」。チャレンジ精神、チームワーク、リーダーシップを身につけるセールトレーニングで市民に親しまれているが、全国ボランティアフェスティバルに、その「あこがれ」がやってくる。9月22日、養護施設の子どもたち60人が招待される「大型帆船のセイルトレーニング」がそのプログラム。

## 養護施設の子どもたちを大型帆船に招待

## 児童・生徒のボランティア活動を、 共に考えましょう

いま、学校と地域の連帯の中で

児童生徒V（21日・14～17時、KDD大阪ビル）

子どもたちに思いやりと自主性を育み、協力と連帯の中で「誰もが共に生きる心」＝「ボランティア心」を芽吹かせていくために、学校と地域はどのように連携を図り、実践していくべきなのか。これをテーマに、大阪府下の福祉協力校などが中心になって開かれるのが「児童生徒V分科会」。当日は、大阪ボランティア教育研究会会長の角

田禮三さんの「児童・生徒のボランティア心を探る（ボランティア意識や態度に関する実態調査）」と題した調査報告からスタートする。この調査は96年6月に大阪府下22の小・中・高校、および盲・聾・養護学校の児童・生徒約800名を抽出し実施されたもので、角田さんは調査結果をもとにしながら「多様なボランティア活動に対する関心や態度の実態」「今後におけるボランティア教育のあり方」などについて報告する。

阪神・淡路大震災で被災した人たちに、手づくり座布団をプレゼント（小曾根小学校）

続いて、豊中市立小曾根小学校から「学校と地域でつくるボランティア活動」、神戸市立神戸商業高校から「阪神・淡路大震災におけるわたしたちのボランティア活動」と題した事例報告があり、その後は質疑応答、そして東洋大学社会学部教授・一番ヶ瀬康子さんによるまとめのスピーチが予定されている。

豊中市立小曾根小学校は、現在、大阪府下に451校ある福祉協力校（内訳は小学校321、中学校107、高校23）の一つで、平成2年から協力校となり本年度で7年目を迎える。「人間尊重の精神



地域のお年寄りの皆さんと交流（小曾根小学校）

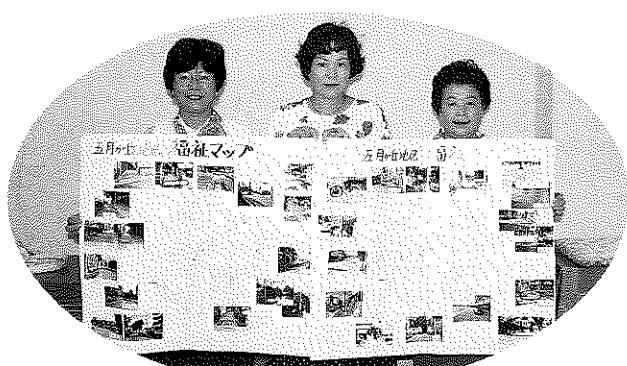


同じく六甲アイランド第7仮設住宅でのペタンク（ニュースポーツ）



六甲アイランド第7仮設住宅でのカラオケ（神戸商業高校は、カラオケセットを文化祭の売上から寄贈した）

ア活動を開催し、いまでは生徒会あげての活動として定着している。児童生徒V分科会は、こうした活動報告を受け、みんなで児童・生徒のボランティア活動について考えていく。



改善すべきポイントの写真も添えた「福祉マップ」。(左から福永美代子さん、児玉節さん、川井條子さん)

大阪府下の多くの社協では、小地域活動をすすめる組織として、小学校区の各種団体等で「地区社協」(府下では校区「地区」福祉委員会と呼ばれている)を組織し、さまざまな活動を開催している。この分科会では、これら地区協の取り組みから、住民による小

大阪府下の多くの社協では、小地域活動をすすめる組織として、小学校区の各種団体等で「地区社協」(府下では校区「地区」福祉委員会と呼ばれている)を組織し、さまざまな活動を開催している。この分科会では、これら地区協の取り組みから、住民による小

地域活動のあり方を検討していく。

吹田市の「五月が丘地区福祉委員会」もそうした地区社協の一つで、分科会では同委員会の江口幸文さんが「福祉マップづくり」の事例報告をする予定。

これは行政機関が作成するような、地図に福祉関連施設などを明記した「福祉マップ」とは違い、地域に住む住民たちが、自分たちで町を見直し「人にやさしい住みやすい町」にするために、町なかの段差やスロープ、電柱の位置などを点検し、不都合があれば担当行政機関に連絡・相談し、最終的にはその改善の実現をめざすという、まさに住民たちによる住民のための町づくり運動である。

「たとえば、公園のベンチが古くなつて、ささくれだつているとしまじょうか。座つた人にトゲがささるかもしれない。その改善はもちろん、公園を管理する行政機関の仕事になるわけですが、しかしそうした“危険な状態”、あるいは障害者やお年寄りに、不親切な状態“になつていることをいち早く気付くのは、私たち住民なんですね。ならば、私たちが地域のそうした”改

**福祉のまちづくり（21日・14～17時、富士通関西システムラボラトリ）**

～住民ですすめる町づくり～  
うちもあんたもボランティア～



地域を「東」「西」「南」「北」に分けて、福祉マップ探検隊がイザ出発！

なされる予定といふ。  
そして「強調したいのは、こうした目に見える成果とはべつに、地域住民の間に、自分たちの町を愛する心、また連帯感といった”目に見えない成果“も出てきたという点です」と児玉さん。子どもたちも一緒になつた、まさに地

域をあげての改善活動。「これからも息の長い活動として続けていくつもりです」と五月が丘地区福祉委員会の皆さんは語られる。(なお、この分科会では寝屋川市の地区社協からも活動報告がなされる予定になつてている)



善すべき箇所“をチェックし、担当機関に連絡・要望うぢやないか…。福祉マップづくりは、そんな発想から取り組み始めた活動なんです」と、五月が丘地区福祉委員会の委員長・児玉節さん。平成5年から活動を開始し、これまでに多くの

「改善前」「改善後」の写真も紹介しながら事例報告が「改善」を実現させてきたところが、当日はOHPで「改善前」「改善後」の写真も紹介しながら事例報告がなされる予定といふ。

そして「強調したいのは、こうした目に見える成果とはべつに、地域住民の間に、自分たちの町を愛する心、また連帯感といった”目に見えない成果“も出てきたという点です」と児玉さん。子どもたちも一緒になつた、まさに地域をあげての改善活動。「これからも息の長い活動として続けていくつもりです」と五月が丘地区福祉委員会の皆さんは語られる。(なお、この分科会では寝屋川市の地区社協からも活動報告がなされる予定になつてている)

## 新発見

平成・朗読ボランティアができる  
情報サービスはなに

朗読V（21日・14～17時、近畿銀行）

目の不自由な人たちのために、テープ図書を作ったり、対面朗読をしたりするのが朗読ボランティア。現在、大阪府下だけでも50以上のグループが活動しているといわれるが、この分科会は、こうしたグループの連絡組織であ

る「朗読ボランティア交流推進委員会」が中心になつて開かれる。

当日、準備されているのは3つのプログラム。まず最初は、朗読ボランティアをテーマにした三幕から成るコンドで、「楽しく笑つていただきながら、朗読ボランティアとは一体どんなものなのか」と皆さんに理解していただきます」と交流推進委員会会長で分科会の運営委員長も務める近藤裕子さんは説明する。三幕それぞれのテーマは「誰でもできる朗読ボランティア」「対面朗読ってなに?」「テープ図書ってなに?」ということだが、皆さん口を揃えて「吉本のノリで頑張ります!」。

二つめは、全体を4つのグループに分けての情報交換＆フリートークイング。利用者のニーズにどのように応えていけるのか…、著作権の問題…、感情移入の是非…など、日頃の実践や取り組みの中から出てきた、さまざまな問題点や課題について話し合っていく。そして3つめは助言者の発言を含めて、全体でフリートークのまとめを行っていく。助言者として予定されているのは①秋田県点字図書館館長なども経験された、JBSS日本福祉放送の恵



分科会の打ち合わせをする「朗読ボランティア交流推進委員会」の皆さん。

美三紀子さん、②高槻市視覚障害者福祉協会の篠原信次郎さん、③JBSS日本福祉放送評議員の一村晃さんの三人

が、 「ともあれ、視覚障害があるからといって、その人の経験できる、体験できる世界が狭められるのはおかしい。私たちの活動の出発点にはそんな共通した思いがあるんですが、実は私たち自身も、朗読ボランティアの活動を通じて、自分の世界が広がっていく。それがまた楽しくもあるんですね」と運営委員の皆さん。ぜひ覗いてみたい分

科会の一つである。

また、当日は近畿圏の朗読ボランティアグループ157団体によるアンケート調査の結果が報告される。活動の場所や内容、困っていることなどボランティアの声が反映され、討論の深まりが期待される。



吉本のノリで、さてどんなコントが繰り広げられるか?



新聞の活字をテープに吹き込む「音訳」作業。





自宅に眠っている古着も、アイデア次第でリッパなオシャレ着に。



「自転車の工房」には、まだまだ使えそうな自転車がいっぱい持ち込まれる。

さて、ボラファエスの分科会はこのうち、主に「イベントと環境情報研究会」の皆さんのが担当するが、当日は以下の3つのプログラムが予定されている。最初は、プラザの主担研究员であり、同時に日本笑い学会会長でもある関西大学教授・井上宏さんによる「笑いとリサイクル」と題した講演。どんな講演になるかは「当日のお楽しみ」ということだが、続いて、市民研究员であり、かつ消費生活コンサルタントとしても活躍する川端真知子さんの「市民研究员の活動報告」が予定されて

環境問題が深刻化するなか、大量生産・大量消費の社会を見直し、モノを大切に、有効に使っていく省資源、省エネルギーのリサイクル型社会を構築していくことは、いまや私たちの社会

の焦眉の課題と言つていい。さまざまなりサイクル活動に取り組むグループも全国的に増えつつあるが、そんな中、ひときわユニークな制度と活動で知られるのが千里リサイクルプラザ（吹田市・通称くるくるプラザ）の市民研究員制度である。リサイクルV

の分科会は、この千里リサイクルプラザの市民研究員の皆さんによ

リサイクルV（21日・14～17時、ナショナルタワー）

## 市民研究員が、家庭でできる「ごみダイエット作戦」を提案

～家庭内でのごみの動き、捨てられたごみのゆくえを追う～

つて企画・運営される。

(財)千里リサイクルプラザは1992年、吹田市や大阪府、そして民間企業134社の出資によって設立された。

ごみの減量とリサイクルを促進するため、さまざまな物品の修理・再生を行う市民工房の運営、各種の講座・講演やフリーマーケットの開催などの多彩な事業を実施しているが、全国でも注目されているのが、市民から研究ボランティアを募り、環境問題についてのさまざまな調査・研究を行つている点だ。

研究員のメンバーは（現在121名）、それこそフツーのサラリーマン、主婦、自営業、定年退職された方などさまざま。この人たちが大学の教員である研究所長、研究員と一緒に、「C.I.（シティアイデンティティ）研究会」「最適システム研究会」「イベントと環境情報研究会」などの5つのグループに分かれて、さまざまな調査・研究に取り組んでいる。

ともあれ、「非専門家による環境研究の必要性」が言われるいま、市民研究员そのものの成果を含めて、興味深い分科会になりそうだ。



牛乳パックから「ハ～イ、こんな素敵なお絵かきができます！」



「ガラス工房」で、ガラス瓶のリサイクルを学ぶ子どもたち。

## 目の見える人も見えない人も 楽しめる、点訳活動を

「点訳ボランティアのこれからを考える」

**点訳V（21日・14時～17時・KDD大阪ビル）**

「なんとかして、息子に他の母親と同じように普通の絵本を読んでやりたい。目の見えない私のそんな思いが、点訳絵本を考案し、文庫活動を始めるきっかけになつたのです」。

よく通る声。明るくハキハキした口調で答えるのは、「てんやく絵本ふれあい文庫」代表の岩田美津子さん。利用者の生の声を聞き、点訳活動のこれからについて考えようという「点訳V」の分科会で、点訳絵本の取り組みと広がり、先天性の視覚障害をもつ岩田さんだ



点訳絵本の貸出しに携わっているボランティアたち

が、持ち前のバイタリティーで家事や育児をこなしてきた。しかし、1歳の息子から「絵本を読んで」とせがまれたときは、子育ての壁にぶちあたつたような大きなショックを受けたと言う。

「普通の絵本だから、さわっても凸がなくて分からぬ。これはどうしたら読んでやれるのだろうと、真剣に考えました」。

試行錯誤を繰り返すこと3年。やつと誕生したのが、市販されている一般の絵本の上に、塩ビ製のやや厚手の透明シールを貼った点訳絵本だ。絵の上には絵を形取った透明シールを、文字の上には点字を打ち込んだ同じ透明シールが貼り付けられている。そのため、目が不自由でも絵本の上をなぞることによって、書かれた文章や絵の輪郭が分かるようになっている。絵本そのものの雰囲気を損ねることなく、目の見える人も見えない人も、同じようにその絵本を楽しむことができるわけだ。「初めて点訳絵本が完成したとき、息子は“ワーッ、お母ちゃんの字が付いている。読んで、読んで”と、私のそばを離れませんでした。そんな絵本を通して、共通の話題をもち、親子の心の絆を深めていくことができたのです」。



「てんやく絵本ふれあい文庫」代表の岩田美津子さん

はこれら本同様、郵送料の無料化を郵政省に働きかけ、実現させた。

現在、「ふれあい文庫」の蔵書数は約4000冊、登録利用者数は約150名。そして、その文庫活動を絵本の点訳ボランティア80名、貸出しボランティア45名が支えている。

「私、専用は嫌い。何でも兼用でないとイヤなんです。」障害者専用「にすること」で、逆差別を受ける要因をつくっている場合が少なくない。障害者

と健常者の間に溝ができ、コミュニケーションも広がらない。分科会では、助けを借り、点訳絵本が増えてくると、今度はこれらの点訳絵本の貸出しを始めた岩田さん。絵本を全国各地の読者に送るために、点字本同様、郵送料の無料化を郵政省に働きかけ、実現させた。

タードの管理室の一角を利用してもらつてあるが、蔵書の増加でこのスペースも手狭になつてきている同文庫。「悩みは、より広い場所の確保と活動資金」と岩田さん。分科会では、そうした点訳絵本についても「アドバイスがあれば」と語っている。

なお「点訳V分科会」では岩田さんのほか、有本圭希さんが「情報の専門書」の点訳の必要性、パソコン通信（てんやく広場）の有用性、電子機器の可能性と限界などについて、また門川紳一郎さんが盲ろう者にとっての点字の必要性などをについて発表する。

## どう病院と関わるか？… 病院ボランティア活動の これらからを考える

「今までの枠にとらわれない新しい活動を！」

**病院V（21日・14時～17時・ナショナルタワー）**

病院の受け付けで案内をしたり、入院患者の話し相手や遊び相手になつたり。患者や家族の気持ちを支え、患者が明るく、より快適に入院生活を過

ごすことができるよう、医療行為以外の場面で、さまざまな活動を行う病院ボランティア。「入院患者のQOL（生活の質）の向上」という点からも、



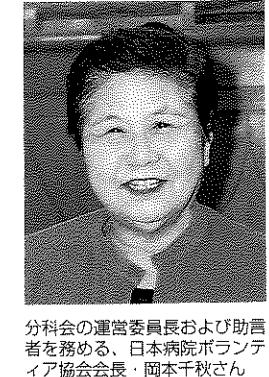
精神科の喫茶室でお茶を出しながら患者さんの話し相手に

いまその活動が大いに注目されている。そんな病院ボランティアの活動の到達点と、現在の課題、今後のあり方について話し合うのが、「病院V」の分科会。そして、この分科会の運営委員長および助言者を務めるのが、日本病院ボランティア協会会長の岡本千秋さんだ。

「1962年に一人の医師の呼びかけで始まった病院ボランティア活動。74年には日本病院ボランティア協会が組織され、現在、全国で89病院が加盟しています。スタートしてから長い歴史があるものの、まだまだこうした活動があることを知る人は少ない。病院ボランティアの存在、およびその活動の意義をより多くの人々に知つてもらう上でも、この分科会は大きな意味があると思っています」。

医師や看護婦、その他の職員との関係性があるが、岡本さんは「病院ボランティア活動がどういった活動か、何をやっているか、何をやるべきか…常に主体的に判断し、行動することが求められている。それは逆に言えば、病院ボランティア活動がどれだけ育つてきているかを知る目安ともなる。分科会では、そうした点について、参加者の率直な意見を聞いてみたいですね」と岡本さん。

「阪神大震災は、ボランティアにとって一つの大きな節目になつた。ボランティアが主体性をもつて活動したという点で、大きな進展があつた。そんな歩みを踏まえつつ、分科会で活発な意見を交わすことから、さらなるステップアップが期待できるのではないかと思うのです」。



分科会の運営委員長および助言者を務める、日本病院ボランティア協会会長・岡本千秋さん



病院の受け付けで記入のお手伝いをする病院ボランティア(エプロン姿の女性)

会・行楽といった遠方へ出かけるためすなわち、自宅近くでの通院や買い物などより、旅行または各種の研修

「手びきの会」は、発足して21年という長い歴史のあるボランティアグループ。現在までの活動件数は約1万9千件に上る。最近は、各市町村のガイドヘルパー制度がかなり整ってきため、一時は年間1200件を超えていた活動件数も少し減り、年に800~900件ほど。「それとともに、手びきの会のような民間のボランティア団体に求められるニーズも随分変わつきました」と、瀧川さんは語る。

は、そのボランティアに携わっている人たちが集まり、「ガイドヘルプV」の分科会も開かれる。その分科会で、主にガイドヘルプの全国的なネットワークの必要性について語るのが「大阪手びきの会」会長の瀧川米夫さんだ。

「手びきの会」は、発足して21年といふねつワークの構築を提唱。例えば、依頼者が東京へ行く場合、新大阪までは手びきの会の会員が、東京に着いてからは東京のボランティア団体がガイ

## ガイドヘルプV(21日・14~17時・キャッスルタワービル)

# ガイドヘルプ・ボランティアの 全国ネットの結成を!

あなたの街から全国各地まで



「大阪手びきの会」会長の瀧川米夫さん

障害者の通院・買い物など、外出介助を行うガイドヘルプ。

21日に

のガイドヘルプの依頼が増加。視覚障

害者の行動範囲が非常に広くなつてき

ていている。視覚障害者のニーズが「AD

SL(日常生活活動)からQOL(生活の

質)の充実へと変化を見せる中、「生

活を楽しみたい」という彼らの思いを

満たすには、一方でボランティアの側

に、「時間的・経済的にどう調整しながら、活動を行つていくか」という課題

が出てきているわけだ。

「手びきの会」では、こうした課題

への一つの対応策として、全国各地の

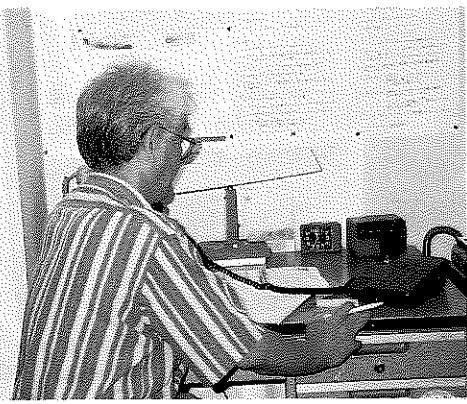
ガイドヘルプのボランティア団体を結

ぶネットワークの構築を提唱。例え

ば、依頼者が東京へ行く場合、新大阪ま

で手びきの会の会員が、東京に着いて

からは東京のボランティア団体がガイ



電話でガイドヘルプの依頼を受ける

ドヘルプを担当すれば、よりダイナミックな活動が展開できるのではないか、と考えている。

手始めに同会では、今年5月、関西のボランティア・グループ13団体による『ネットワーク・グループ近畿会議』を開催し、情報交換を行った。「分科会

では、こうした取り組みについて参加者の皆さんから忌憚のない意見を伺いたいと思っています」と瀧川さん。ガイドヘルプ・ボランティアの今後のあり方について、一歩踏み込んだレベルの高いディスカッションが展開されそうだ。

イドヘルプ・ボランティアの今後のあり方について、一歩踏み込んだレベルの高いディスカッションが展開されそうだ。

## 家庭的な雰囲気で、 手作りの支援活動を推進 ～支援ボランティアグループの魅力を探る～

**当事者支援V（21日・14時～17時・ナショナルタワー）**

老人介護者（家族）の会、障害児の親の会、ひとり親家庭の会など、当事者の組織的な活動が展開されているが、そんな活動の一端を支えるのが、会を支援するボランティアたちだ。「当事者支援V」の分科会では、こうしたボランティアたちの取り組みについて、事例報告を行うとともに、今後のボランティア活動のあり方などについて意見交換を行う。

上田サダ子さんも、この分科会で事例報告を行う一人。枚方市牧野地域のデイケアの取り組みについて発表する。このデイケアは、「介護が必要とするお年寄りが気軽に集まり、食事やゲームなどを通して楽しく集える場所になければ」と、枚方市老人介護者（家族）の会が運営主体となり、平成4年10月からスタートしたもの。活動に携わつ



牧野地域デイケア・ボランティアの上田サダ子さん

市内の他の地域でも、いくつかのデイケアが誕生。こうしたグ

ているボランティアは、「介護者（家族）の会」の会員やOB、ボランティアグループ・コスマス、地域の人々など。月に4回、昼食をはさんで、創作活動を行ったり、歌や体操を楽しんだりしている。

最初は手探りの状態だったが、今は活動も軌道に。昨年秋から、送迎を担当してくれる男性もあらわれ、高齢者にとって、より利用しやすいものになつた。「牧野に続け」と、今では枚方

## ”非対立の姿勢”で、 地球保護の緊急性を訴える ～美しい地球を未来に！ 環境問題 と私たちが身近にできること～

**自然保護V（21日・13時～17時・MIDシアター）**

「地球環境は私たちが考えている以上に深刻な状態に向かいつつあります。

分科会では、データを提示しながら、

病んでいる地球の現状を少しでも多く

の人に知つてもらひ、どうすればよい

かを考えていくきっかけづくりの場に

したいと思つています」。

こう語るのは「ネットワーク地球村

自然保護V分科会」で、地球村の活動を

オゾンホールの拡大、温暖化、森林

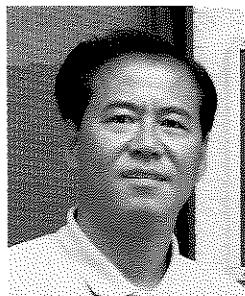
上田さんのほか、この分科会では、岐阜県八幡町の痴呆性高齢者支援ボランティアグループの谷沢洋子さんが、痴呆性高齢者の会づくりとボランティア支援について、そして京都府舞鶴市の嵯峨根貞子さんが父子会支援ボランティアグループの取り組みについて、同じく向日市の津田洋子さんが障害児童支援ボランティアグループを通して、

「できるだけ家庭的な雰囲気のなかでの活動を心がけてきましたが、そこが地域のボランティアたちによる活動の良い点かも。何よりも、お年寄りとボランティアがその場で喜びを共有できるのがすばらしい。分科会では、この点も強調していきたいですね」。

障害をもつ学童の放課後・学休日のケアと組織化について発表する予定だ。



紙粘土で一輪挿し作りを楽しむ高齢者たち



「こころの健康を考える市民フォーラム」代表の南出栄治さん。当事者たちで組織する「ひまわり会」の会長も務める

精神障害者になつても地域で普通に暮らしたい——当事者たちの当たり前

精神保健V（22日・9時～12時・キャッスルタワー）

精神障害者への偏見を打破し、地域住民の支えあいと連携をつなげよう人の輪、拡げようこころの輪(

の願いを実現していくにはどうすればいいのだろう…。そんな視点に立ち、地域の取り組みと経験を学び合おうというが、22日に開かれる「精神保健V」の分科会。南出栄治さんはその分科会の発言者の一人。東大阪市で開催された「こころの健康を考える市民フォーラム」の取り組みについて発表する。

同フォーラムは、精神障害者を理解し、彼らにとつて何がいま必要で、何

南出さんは同フォーラムの代表。心の病を患つたことのある当事者でもある。「精神障害者」というと、危害を加える怖い人“というイメージが強く、今まで偏見のなか、地域から隔離された状態で暮らしてきた。しかし、病気から回復した者は、地域で暮らし、生活のさまざまな場面において自己決定していく力をもっている。他の障害者と同様、地域の人々の理解と助けを得ながら、まずは社会参加していきたい

が最も良なのかを考えようとするもの。精神障害者当事者をはじめ、東大阪市の精神科医、市役所・保健所・福祉作業所職員などがスクラムを組み、1回目は精神障害者の社会参加が進む米国カリリフォルニア州から二人の講師を迎えて、平成6年11月に開催。第2回目は「わたしから変わらなきやー精神障害者も共に暮らす街づくり」をテーマに、パネルディスカッションを今年2月に行つた。

…。そんな私たちの思いを分かつても  
らうには、自らが立ち上がり、率直な  
気持ちを社会に伝えていかなければ…。  
と思つたんです。分科会では、そうし  
た私たちの思いをもとに開催したフォ  
ーラムの意義を述べるとともに、当事  
者同士や地域住民との支えあいの大切  
さについても言及していきたい」と南  
さん。  
自分の中に潜む精神障害への偏見に  
気づき、参加者自身が自らをもう一度見  
直すきっかけになるかもしれない…。そ  
んな手応えのある分科会になりそうだ。

多くの人の  
から支持  
されてい  
る背景に  
は、こう  
した活動  
スタイル  
が要因と  
なっていることも、分科会では強調し  
ていくつもりです」。

「地球村の活動は手ぬるい」と批判  
されることもある。しかし、大上段に  
構えたり、過激な行動に出ても、けつ  
して多くの人がそれについてくるわけ  
ではない。自らが本当にそれに気づき、

認識してはじめて、人は考え方やライ  
フスタイルを変えることができるのだ。  
「過剰包装を断る、再生品を使うなど、  
わずかなことでも自分ができることか  
ら無理せずに始めていく。何よりもま  
ずは自分が変わること。自分が変わることで周囲にも輪を広げていくことが  
できると思うのです」と松吉さん。

なお、この分科会では、パネルディ  
スカッショーンの後、映画「ガイアシン  
フォニー」（地球交響曲）を観賞し、同  
映画出演者の話を聞く機会も設ける。  
盛りだくさんの取り組みで、展開が楽  
しみな分科会だ。



講演会で深刻な地球環境の現状を語る「地球村」のスタッフ

破壊、酸性雨、水質汚染…。地球環境は近年悪化するばかり。このまま進めば、地球全体の生命維持システムが崩れ、さまざまな生物が大量絶滅の危機となる…。

「『病んでる地球』をつくったのは私たちすべての責任。行政や企業だけに責任を押し付ければ、それで解決する問題ではない。地球村では、さまざまな団体から依頼を受け、全国各地で講演活動を開催していますが、特定の相手だけを批判したり、決めつけたりといふことはありません。事実を伝え、問いかけ、ともに考えていく“非対立の姿勢”が、活動の基本方針です。

A black and white halftone dot portrait of a man with dark hair, wearing a light-colored collared shirt. He is smiling broadly, showing his teeth. The image has a distinct dot pattern texture.

「ネットワーク地球村」の松吉  
徹也さん

多くの人が  
から支持  
されてい  
る背景に  
は、こう  
した活動  
スタイル  
が要因と

精神疾患を患った人々が利用するディケアセンター「やすらぎの里」で、仲間と話をする南出さん

認識してはじめて、人は考え方やライフスタイルを変えることができるのだ。「過剰包装を断る、再生品を使うなど、わずかなことでも自分ができることから無理せずに始めていく。何よりもまずは自分が変わること。自分が変わることで周囲にも輪を広げていくことができると思うのです」と松吉さん。

<第5回全国ボランティアフェスティバル大阪 協賛事業>

# Philanthropy Concert 1996

9/21[sat]・22[sun]



後援 大阪リサイクル事業協同組合  
協賛 (株)ハートス・BLUE-Z INC.  
企画制作 PHILANTHROPY 実行委員会  
フィランソロピーコンサートは、第5回全国ボランティアフェスティバル大阪に協賛しています。

主催 MICKY'S

お問合せ先：チケットぴあ 06-363-9999  
チケット・セゾン 06-232-9999



チケット・セゾン 06-232-9999



06-363-9999

大阪城公園 野外音楽堂  
GATE OPEN 12:00  
START 13:00



1,000 YEN

\*当日、クルマでの来場はご遠慮ください。

## 情報コーナー

### 講演会とシンポジウム

### 「創造的ボランティア活動の発展のために」

日時 10月8日(火) 13時30分

会場 守口市河原町8-22

TEL 06-992-11276  
内容 第1部・記念講演  
「ボランティア団体の社会的役割と自立」  
タイムダラ一事務局長 アナ・ミヤレス氏  
「ボランティアに期待するもの」  
守口市長 壱多洋二氏

第2部・シンポジウム  
「ボランティア活動発展のために」

主催 守口市・守口市社会福祉協議会・長寿社会文化協

連絡先

守口市社会福祉協議会  
TEL 06(992)2715  
FAX 06(993)0134

### 「車いすサッカー」のボランティア募集

15年前大阪で身障者数人で始めた電動車いすサッカー。勝つためのチームづくりを目指して、ボランティアを募集しています。審判、介助などを手伝ってください。チーム名は「ダス・ムーティケ(ドイツ語で勇気ある者)」。一ヶ月の練習回数や時間帯などボランティアと話し合って、進めていきたいと考えています。

練習場所 大阪市身体障害者スポーツセンター内の体育館  
大阪市東住吉区長居公園1-32  
最寄り駅は地下鉄御堂筋線「長居」

連絡先 西川禎匡 TEL 06(633)8408  
上田敏 TEL 06(606)7750

## 福祉まつりのお知らせ

日時 10月20日(日) 10時~16時  
場所 ユーベルホール、豊能町保健センターおよびその周辺

内容 ユーベルホール  
ふれあいコンサート(開場13時30分)

出演 紙ふうせん  
入場 無料

保健センター

講習会・伝承遊びの「コーナー・介護用品展示コーナー・ボランティア活動紹介コーナー・模擬店

※ボランティアで外出困難な高齢者・心身障害者の送迎を行います。ご希望の方は9月末までにボランティアセンターまでお申し込み下さい。人数は5名程度

問合せ 豊能町ボランティアセンター  
TEL 0727(38)5370

### 、'96たかつきふれあいひろば

ボランティア・障害者団体・作業所などが中心になつて開催する「ふくしまつり」に参加ください。

日時 11月2日(土) 13時~16時(衣料品のバザー)  
場所 高槻駅前郵便局および松阪屋横歩道

内容 福祉バザー・作業所・授産所の作品販売・海外協力活動・福祉活動啓発パンフの配布・模擬店・各種イベント

主催 96たかつきふれあいひろば実行委員会  
連絡先 TEL 0726(833)2200

### ふれあいフェスティバル東大阪

日時 11月4日(月) 11時~15時  
場所 東大阪市立総合体育馆「東大阪アリーナ」  
東大阪市中小阪4-1-60  
TEL 06-726-1995

## ボランティア募集 第20回福祉まつり実行委員会

内容 「コンサート、作品展、バザー・模擬店、演芸、相談コーナーなど」  
主催 東大阪ふれあい広場実行委員会  
連絡先 TEL 06(789)55500  
障害者福祉キャンペーン実行委員会

日時 11月16日(土) 10時~17時(翌日)における準備  
11月17日(日) 8時~17時(本祭典)  
場所 大阪市城東区古市1-20-17  
内容 城東老人ホームおよびその周辺  
の祭りの設営・撤収に関わる作業、および各模擬店、「コーナーでの要員、介助などを手伝ってください。食事は施設で用意します。

なお、10月26日午前9時~午後3時まで、「第3回ふれあい入浴デー」を開催。入浴介助などのお手伝をしていただける方も同時募集。  
問合せ 携帯TEL 080(795)6835  
関田学園企画室TEL 06(939)9030  
市岡洋美

### 北摂ふれあい広場 社協設立45周年記念

日時 11月30日(土) 13時  
場所 茨木市民総合センター(クリエイトセンター)  
内容 第一部「北摂ふれあい広場」「講演「ボランティア活動と新しい市民社会」

前日本ユネスコ協会連盟評議員・阪本秀雄氏  
イジング協会評議員・日本ウェル工  
第2部「茨木市社協設立45周年記念式典」  
展示 手作り介護用品、福祉機器ほか  
問合せ 茨木市ボランティアセンター  
TEL 0726(27)0033

あの鐘の音を、

あなたは聴いたことがありますか。

割れた雲のすき間から、

黄金の光とともに、

あなたの上に降り注いでいる、

あの鐘の音を。

ガイア

地球の声が、  
きこえますか。

イルカ達も、ETも、

梅干しも、山の雪も、

あの鐘を打つ者が誰なのか、

もうとつくなっています。

心で聴いてください。

第一番・第二番  
同時上映！

全国ボランティアフェスティバル大阪  
(協賛事業)

# 地球交響曲 ガイアシンフォニー 第二番



龍村 仁 監督作品 出演 ジャック・パラード(海洋冒険家) ダライ・ラマ(チベット仏教最高指導者) フランク・ドレイク(天文学者) 佐藤初女(森のイスキア主宰) テーマ曲 "Ave Maria" Song by Susan Osborn  
声の出演 木内みどり 横木孝明 中村益作雄(友情出演) 三國連太郎(友情出演) 監修 植盛和夫 制作・配給 株式会社オーラード 製作 京セラ株式会社 1995年 日本映画/カラー/2時間10分/ドキュメンタリー作品

9月21日(土)  
9月22日(日)

第一番 PM4:00~  
第二番 PM6:20~  
第一番 PM1:00~  
第二番 PM3:20~

■会場: MIDシアター (大阪市中央区・OBP内)  
■入場料: 1日/1,000円 (入れ替えなし)  
■主催: 全国ボランティアフェスティバル映画上映委員会  
06-762-9631 (フェスティバル事務局)

■お知らせ: 第一番上映の30分前に、植物学者の野澤重雄さん(映画出演者)を迎えてインタビューがあります。